

INFORMATION MAGAZINE THE JOURNAL

ザ★ジャーナル!!

National Hospital Organization Okayama Medical Center

Vol.14
No.3

2019.12

やさしさ便り～国立病院機構岡山医療センターの今

地域災害拠点病院
地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
総合周産期母子医療センター

岡山医療センターの理念

今、あなたに、信頼される病院

－病める人への献身、
医の倫理に基づく医療への精進と貢献－

- 1: 医学的根拠に基づいた高度で良質な医療を提供します
- 2: 病める人の権利と意思を尊重した、安心安全な医療を提供します
- 3: 地域の中核病院として医療連携を通じ、地域社会に積極的に貢献します
- 4: 教育研修病院として医師、看護師等医療に従事する人材育成に努めます
- 5: 医学の進歩に貢献するために、臨床研究を積極的に行います
- 6: 職員が仕事に誇りと充実感を感じられる病院作りをめざします
- 7: 上記6項目を実現し維持するため、健全な病院運営に努めます

CONTENTS

- | | |
|----|---|
| 2 | 特集: 血液内科 |
| 4 | 特集: 緩和ケア内科 |
| 6 | 特集: 感染症内科 |
| 7 | カンタン心肺蘇生【PUSHコース】開催! |
| 8 | マンモグラフィの更新について |
| 9 | 歯科だより「歯科用金属による金属アレルギー」/金川病院だより |
| 10 | 初期研修医通信/臨床研究推進室便り |
| 11 | 薬だより/医療安全レポート |
| 12 | 健康レシピ「冬野菜と豆腐の和風グラタン」/リソースナース室通信 |
| 13 | 地域医療連携室通信 |
| 14 | 看護助産学校通信 |
| 15 | 優秀ポスター賞を受賞しました。/原子力災害拠点病院の指定 |
| 16 | 病院フェスタ2019のご報告 |
| 18 | たまにはクラシック |
| 19 | 私のホームグラウンド、池田動物園 |
| 20 | 病棟にしまじろうが遊びに来ました☆
岡山医療センターへの電話連絡について
編集後記 |

表紙写真

北川村「モネの庭」マルモッタン〜ひと夜の煌き〜(当院職員撮影)



岡山医療センター
ホームページ

はじめに

当院の血液内科は、日本血液学会認定血液専門医研修施設、骨髓移植・臍帯血バンク移植認定施設として47床（内、無菌治療室22床）を有し、常時40～60人の入院患者に対応し、中国・四国地域でもトップクラスの規模を誇っております。また国立病院機構・中国地区血液疾患基幹病院として、岡山県全域からは勿論のこと香川県・広島県・兵庫県などからも広くご紹介頂いており、院内他科医師および

他職種（看護師、薬剤師、臨床検査技師など）と密接な連携を取りながらチーム医療を実践しております。

現在は、日本血液学会認定血液専門医・指導医を含めた4名の常勤医師と活気あるレジデント2名、血液志望内科専攻医1名の計7名で、外来患者と入院患者の診療を行っています。また急患にも対応できるように24時間のオンコール体制を組んでいます。

スタッフ紹介

角南 一貴（H3年卒） 臨床研究部長
 牧田 雅典（H8年卒） 医長
 吉岡 尚徳（H18年卒） 医師
 石川 立則（H21年卒） 医師
 村上 裕之（H27年卒） レジデント
 守山 喬史（H27年卒） レジデント
 藤原加奈子（H29年卒） 血液内科志望内科専攻医



外来表（2019年12月現在）

午前：受付8:30～11:00
 午後：予約のみ

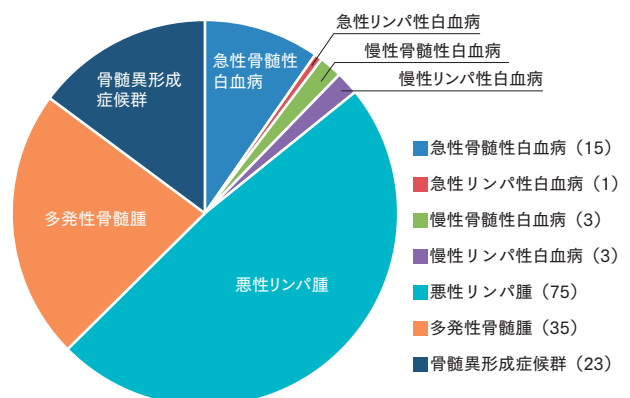
◇担当医は都合により変更・休診となることがあります。

	月	火	水	木	金
午前	吉岡尚徳		牧田雅典	角南一貴	石川立則
午後		造血細胞移植後 フォローアップ外来 (第2週 午後)	牧田雅典		フォローアップ外来

診療内容

白血病、骨髓異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍を中心に、さらには再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患を含め血液疾患全般の診療に取り組んでいます。また後天性免疫不全症候群（AIDS）、HIV診療も行っております（外来日 要確認）。週1回の全員による入院患者回診、カンファレンス、検鏡カンファレンスにより、症例毎に検討を重ね治療を決定しています。

主要疾患別新規患者数（2018年度）



1) 白血病/骨髓異形成症候群

急性白血病に対しては化学療法、分子標的治療から造血幹細胞移植に至るまで最新の知見に基づいた治療を行っています。慢性骨髄性白血病はチロシンキナーゼ阻害薬(イマチニブ、ニロチニブ、ダサチニブ、ボスチニブ、ボナチニブ)による外来治療を行っています。慢性リンパ性白血病に対しては、標準的化学療法のほか、抗体医薬(オファツムマブ、アレムツズマブ)、分子標的薬(イブルチニブ)の導入も行っています。骨髓異形成症候群に関しては、従来の化学療法に加え、脱メチル化剤(アザシチジン)や-5q症候群に対するレナリドミドも積極的に使用しており、適応症例には造血幹細胞移植まで行っています。

2) 悪性リンパ腫

化学療法、抗体医薬(リツキシマブ、オビヌツズマブ)、放射線療法および造血幹細胞移植(自家および同種)を組み合わせた標準的治療を基本として、個々の病状に応じて最良と考えられる治療の提供を心掛けています。悪性リンパ腫の代表的な治療であるCHOP療法(またはR-CHOP療法)などは、初回入院治療を行い、2回目以降の治療は基本的に外来で行っています。

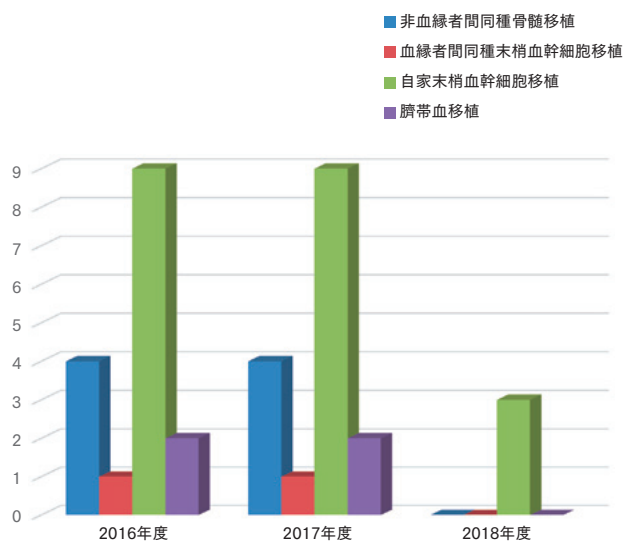
3) 多発性骨髄腫

多発性骨髄腫の診療に関しては、昭和50年代から力を入れており、日本でも有数の専門施設と認められ、近隣ならびに遠方からの紹介もあり多数の症例を診療しています。近年、多発性骨髄腫は新規薬剤の開発が活発であり、分子標的治療(ボルテゾミブ、カルフィルゾミブ、イクサゾミブ、レナリドミド、サリドマイド、ポマリドミド、パノビノスタット)、抗体医薬(エロツズマブ、ダラツムマブ)など積極的に取り入れて

います。若年症例には自家および同種の造血幹細胞移植も行っております。症例も多いことから新薬開発治験(臨床試験)も積極的に行っており、難治症例に対していち早く保険適応外の薬剤を使用できる場合があります、症例によっては有効なこともあります。

4) 造血幹細胞移植

当院は骨髓バンクおよび臍帯血バンク認定施設であり、成人の造血幹細胞移植においては岡山県で一番早く導入した実績があります(平成3年に導入)。特に多発性骨髄腫における造血幹細胞移植に関しては開始時期および症例数ともに日本の先駆的な立場にあります。



臨床研究

岡山大学血液・腫瘍グループの関連施設として、大学と協力し種々の臨床研究に協力しています。また国立病院機構血液グループ、日本成人白血病研究グループ(JALSG)、日本細胞移植研究会(JSCT)および日本臨床腫瘍グループ(JCOG)などの多施設共同研究に積極的に参加し、白血

病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫を含めた血液疾患の最新治療の開発に努力しています。また多発性骨髄腫を中心に多くの血液疾患において新薬開発治験も取り扱っています(随時更新、問い合わせ要)。

医師教育

当院は日本血液学会認定血液専門医研修施設であり、多くの初期研修医、後期研修医、レジデントが血液疾患を学びに来ます。次世代を担う彼らたちが知識を身につけ、血

液疾患で苦しむ人達に満足な治療を提供できるように教育指導(学会発表、論文作成を含む)を行っています。

最後に

近年の高齢化に伴い、造血器悪性腫瘍を含め血液疾患も増加傾向にあります。また治療は日進月歩であり、血液疾患分野についても例外ではなく、治療は複雑になり細分化されています。またそれに伴い患者さんの要求も高くなって

おり、それに対応できる病院が必要と考えられます。当院の血液内科は、中国地区血液疾患基幹病院として地域近隣病院と密に連携し、さらに遠方からも来院される多くの患者さんの要求に応えるべく努力したいと思います。

緩和ケア内科

～苦しみを予防し、和らげることに力を注いでいます～

■緩和ケア内科医長・緩和ケア推進室室長 宮武 和代

緩和ケアとは

緩和ケアとは、WHOにより「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・

オブ・ライフ(QOL)を改善するアプローチである。」と定義されています。

患者さんご家族が必要とされる治療やサポートは多種多様であり、様々な職種のメンバーの関与が必要です。そのため、多職種による緩和ケアチームが緩和ケアを担当します。

当院の緩和ケアチーム

当院の緩和ケアチームは2006年に活動を開始しました。2016年には緩和ケア内科が新設され、緩和ケアの専従医師がチームに加われました。現在は緩和ケア内科医、呼吸器内科医、消化器内科医、外科医、精神科医、がん性疼痛看護認定看護師、薬剤師、退院調整看護師、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、リハビリ専門職、歯科衛生士が主治医や病棟スタッフと連携して患者さんご家族に緩

和ケアを提供しています。

チームのメンバーが身に着けているバッジは、「日中は苦痛が無く笑顔で過ごすことができ、夜間はゆっくり眠ることができるようなケアを提供する」という目標を表しています。



緩和ケアチーム

後列左から

熱田幸子 (がん病態栄養専門管理栄養士)
中西初美 (がん病態栄養専門管理栄養士)
黒原かおり (退院調整看護師)
高淵陽子 (医療ソーシャルワーカー)
池内克馬 (作業療法士)
宮下広大 (理学療法士)

前列左から

田頭尚士 (がん専門薬剤師)
岸口武寛 (精神科医長)
藤原慶一 (呼吸器内科医長・緩和ケア内科医師)
宮武和代 (緩和ケア内科医長)
市由美子 (がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア専従看護師)
松尾敬子 (歯科衛生士)

緩和ケアチームの活動内容

緩和ケアを必要とされる患者さんご家族に、適切なケアが提供されるように、緩和ケアチームは様々な活動を行っています。

主治医から依頼された患者さんには、個別に介入します。外来でも入院中の病室でも、必要なメンバーがお話を伺い、治療やケア、療養のサポートを行います。

週1回、チームが介入している患者さんと、医療用麻薬を使用している入院患者さんについて、症例カンファレンスを行っています。カンファレンス後は病棟ラウンドを行い、病棟スタッフとの情報共有やアドバイスをを行います。

がん等の診療に携わる全ての医師・歯科医師、緩和ケアに関わる医療従事者を対象に、年に1回研修会を開催しています。これは、基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識、技術、態度を修得することで、緩和ケアが診断の時から適切に提供されることを目的としており、今年度も10月27日に多数のスタッフが受講して充実した研修となりました。緩和ケアが特別なことでなく、あたりまえの医療・ケアとして普及するように病院としての取り組みでもあります。



2019年緩和ケア研修会

緩和ケアの理解を深め、地域連携の輪を広げる目的で、医療関係者を対象とした講演会も年に1回行っています。11月21日に、NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会理事長・一般社団法人全国がん患者団体連合会副理事長の松本 陽子先生をお迎えして、『『わたしらしく』を支える医療への期待』というテーマでご講演いただきました。院内外から100名を超える参加があり、患者さんご家族の思いを聴かせていただきました。



2019年緩和ケア講演会

院内のスタッフを対象とした緩和ケアの勉強会も行っています。チームのメンバーが講師となり、それぞれの職種・立場での緩和ケアについて話をします。

おわりに

「診断された時からの緩和ケア」は目標ですが、緩和ケアについて考えるタイミングは、「早すぎる」ことも「遅すぎる」こともありません。緩和ケアを必要とする方に適切な

ケアが行われ、より豊かな人生を送っていただけるように、緩和ケアチームは活動を続けます。

今後とも、ご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。

感染症内科

～抗菌薬を使いこなす専門家です～

■感染症内科医長 齋藤 崇

感染症内科について

当院の感染症内科は2016年4月に新設されました。現在は感染症専門医である齋藤崇とレジデントの山田晴士の2人で活動しております。

感染症内科は感染症(疑い)患者さんの診断・治療に関する「感染症診療支援活動」を中心とした活動をしています。「感染症診療支援活動」とは当センターに入院中または受診された患者さんを対象に、各診療科の先生方から感染症(疑い)の診断や治療についての相談を受けたり、血液培養陽性検体など細菌検査結果から重症感染症と判断されたりした症例などについて、各科先生方と協力しながら診療に携わるという活動であります。具体的には患者さんの状態を主治医・担当医の先生方から伺い、病室・診察室へ赴き患者さんから話を聞き診察をし、適切と考えられる検査・治療の提案をさせていただいております。その後も患者さんの状態が落ち着くまで経過を診させていただきます。

2016年の感染症内科開設より、内科・外科を問わず全ての診療科より相談をいただき、肺炎や尿路感染症など頻度の高い感染症から、海外渡航後感染症、性感染症、動物由来感染症など専門的な感染症まで診ております。相談等の件数は感染症内科を開設した2016年から増加傾向で、現在は年間700件近くまで増加しています。

世界では抗菌薬の乱用による薬剤耐性菌の増加が問題となっており、我が国でも厚生労働省が主体となり薬剤耐性菌への取り組みが行われています。当院では「感染症診療支援活動」を通して抗菌薬の適正使用を促しております。感染症診療支援活動開始3年間で病院全体のカルバペネム系抗菌薬や抗MRSA薬の使用量が半減しております。

感染症内科は感染症診療支援活動を通して、今後も一人でも多くの感染症(疑い)患者さんの診療に携わるとともに、薬剤耐性菌対策および抗菌薬の適正使用の推進を行ってまいりたいと考えております。

感染症内科スタッフ



山田晴士 医師

齋藤 崇 医長
(感染症専門医、指導医)

カンタン心肺蘇生【PUSHコース】開催!

■救急科医長 宮地 克維



倒れている人を発見したとき、勇気を持って声をかけることができますか?
AED（自動体外式除細動器）をご存じですか?
もしもの時にAEDを使えますか?

あなたの勇気で救えるいのちがたくさんあります。

いつでもどこでも誰にでも起こりうる心臓突然死。1年間に約7万人の方が心臓突然死で亡くなっています。1日に換算すると約200人、岡山県内で毎日3人が心臓突然死で亡くなっていることになります。

心臓突然死の原因の一つに「心室細動」という不整脈がありますが、その心室細動を一刻も早く止めて救命する道具がAEDです。AEDは駅や空港、街中のデパートやスーパーマーケットなどにも設置されていて、一般の方も使えるようになっています。

また、突然意識がなくなって普通ではない呼吸をしだした人や、呼吸をしなくなった人に対して行うことが心肺蘇生ですが、その中でも特に重要なものが胸骨圧迫（心臓マッサージ）です。AEDが手元にやってくるまで胸骨圧迫を行います。胸骨圧迫とAEDを用いることで、それらを用いない場合に比べて助かる人が4倍に増えるとされています。

10月19日土曜日、当院で病院フェスタを開催しましたが、その際に胸骨圧迫とAEDの使い方を学ぶ講習会である【PUSHコース：「みんなでPUSH！アニメで学ぶカンタン心肺蘇生」】を開催し、大勢の方に参加いただきました。PUSH認定インストラクターのガイドとアニメのキャラクター救急救命士の「ボジョレーくん」の指導のもと、DVDを見ながら「あっぱくんライト」（写真）の心臓を押したり簡易的なAEDを用いて心肺蘇生のトレーニングを楽しく行

い、1日院長、1日看護部長にも「あっぱくん」を助けていただきました。

このコースは45～50分程度と大変短いですが、それによって **Call and PUSH** すなわち倒れている人を見つけたら勇気をもって声をかけたのち、

1) 119番通報とAEDの要請

2) 胸をPUSH

3) AEDのボタンをPUSH

を実践できるようになることを目標としています。受講された皆さんがもしもの時にこれらのことを思い出して、完璧でなくてもいいので少しでもできるようになってくれることが、PUSHコースに携わるものとしての願いです。

当院には岡山に2名しかいない「PUSH認定インストラクター」が2名とも在籍しており、今後も職員の再学習や地域の皆さま対象のPUSHコースを開催したいと目論んでいます。ご興味のある方はお声がけいただけると幸いです。

PUSHコースの詳細はPUSHプロジェクトのウェブサイト

<https://osakalifesupport.or.jp/push/>

をご参照ください。



マンモグラフィの更新について

■放射線科マンモグラフィ担当

2019年9月にマンモグラフィ検査装置の更新により、FUJIFILM社製AMULET Innovalityを導入しました。

新しい装置は検査を受けられる方にリラックスしていただけるよう、やさしい光や色合いで緊張を和らげるための配慮がされております。

また、当装置ではフラットパネルが用いられており、

撮影してから画像が表示される時間が短縮され、検査時間も以前より短くなっております。

さらに高画質を保ったままで被ばく線量を抑えることが可能となり、非常に少ない量の放射線で撮影するので、健康に影響が及ぶ心配はありません。

マンモグラフィ検査について

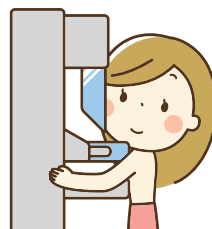
マンモグラフィ検査とは乳房専用のX線撮影装置で行う検査です。

乳がん検診には「視触診」、「マンモグラフィ」、「超音波(エコー)」がありますが、早期乳がんの発見にはマンモグラフィと超音波による画像診断が有効です。マンモグラフィは視触診ではわからないような小さな腫瘍(しこり)や早期乳がんのサインである小さな石灰化を見つける事ができるのが特徴です。

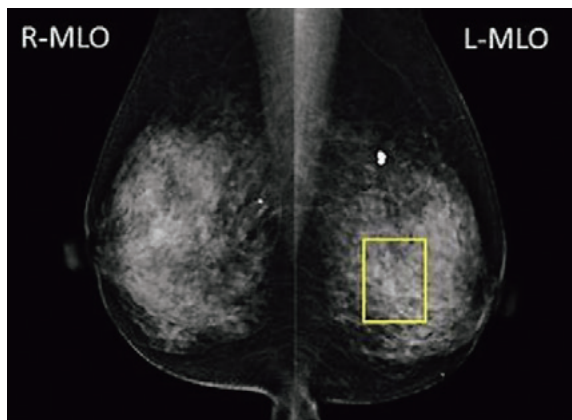
現在日本人女性のがんの中で最も多いのは乳がんですが、検診による早期発見により90%以上が治ると言われています。しかしながら、日本では検診受診率が約40%とまだまだ低いのが現状です。

検査について

検査ではアクリル圧迫板で乳房を挟んで撮影します。圧迫する事によって重なった乳腺をひろげることにより診断情報の高い画像が得られます。圧迫は個人差により痛みを感じることがあり、特に生理前は乳房が張って痛みに敏感になることがあります。検査時間は約10～15分です。



マンモグラフィ検査装置の更新により、引き続き患者さんにより良い医療を提供していきたいと考えております。





歯科用金属による金属アレルギー

■歯科医長 角南 次郎



金属アレルギーは金属に接触して起こるⅣ型(遅延型)アレルギーで、皮膚や粘膜に炎症を起こして疼痛、発赤、かゆみなどの症状を生じます。ひどい場合は水ぶくれやびらんを生じることもあります。原因となる金属としてはニッケル、クロム、コバルト、水銀などの頻度が高いと言われています。

歯科用金属にもさまざまな金属が使用されており、金属冠や金属製の歯の修復物、義歯の鉤などの金属部分などによって金属アレルギーを生じます。歯科用金属によるアレルギーには、舌炎、口内炎、口腔扁平苔癬(写真1.)、口腔内の粘膜炎(写真2.)、口唇炎などの

口腔内症状のほか、全身症状として皮膚扁平苔癬、皮膚掻痒症、掌蹠膿疱症、浮腫性紅斑、汗疱状皮膚炎、貨幣状湿疹、全身の皮膚炎などが生じることが知られています。

歯科用金属アレルギーの診断には上記の臨床症状と口腔内の歯科用金属の存在ならびにパッチテストによる金属アレルギーの検査が必要です。もし、金属アレルギーで陽性と判定された場合は口腔内から原因の金属を除去することが必要になります。そして非金属の金属冠や修復物によって歯科治療をやり直すことになります。



写真1. 金属冠周囲歯肉に生じた扁平苔癬



写真2. 金属充填物によって生じた歯肉、頬粘膜炎

参考文献

- 1) 藤井弘之:健康な心と身体は口腔から ― 歯科材料アレルギーが全身に及ぼす影響―, 日歯医学会雑誌, 24:30-34, 2005.
- 2) 井上昌幸, 中山秀夫:歯科と金属アレルギー, デンタルダイヤモンド社, 東京, 2005.

岡山医療センター分院 金川病院だより

■金川病院 診療放射線技師 小倉 裕樹

放射線科の業務内容について

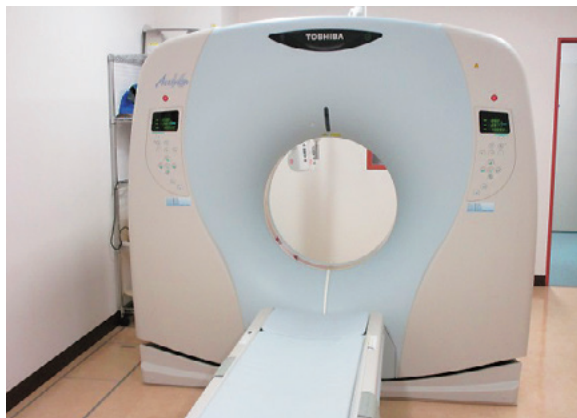
放射線科は、診療放射線技師1名体制で、一般撮影・透視撮影・CT撮影・骨塩定量測定等の放射線検査を行っています。また、岡山市健康診査の肺がん検診も実施しています。岡山県肺がん精密検診機関にも認定されており、肺がん精密検診(二次検診)にも対応します。

他施設との連携では、放射線検査全般について依頼を受けています。撮影した画像は、通常の診療同様に岡山医療センターの放射線専門医が遠隔読影を行っており、質の高い診療情報を提供しています。近隣の開業医の先生方からの画像紹介件数は、年々増加の一途です。

岡山医療センターとは業務が異なるため戸惑っていますが、日々精進しております。これからも、御津地区を中心とした地域包括ケアに、少しでも貢献できる病院を目指して頑張っております。



放射線科受付



CT装置



初期研修医通信



目まぐるしくすぎる日々の中で

■初期研修医 二口 慧介

秋も深まり、日が短くなってきました。新しい環境での生活に適應しようと、慌ただしい日々を送っていたのも束の間で、日を経るにつれ職場にもなじみ、落ち着いて研修に取り組めるようになってきたように思えます。

初期研修医としてこの岡山医療センターで働き始めて半年以上が経とうとしていますが、日々の研修を通して、基本的な診療の流れは勿論、患者さんとの信頼関係の築き方、スタッフとのコミュニケーションの重要性まで様々なことを学ばせて頂いております。研修医の間では、毎週金曜日の早朝からプライマリーカンファレンスを行い、日当直で命に関わる症例に直面した際にどのようにアプローチを行うか、情報を共有して研鑽を積んでいます。慣れてきたとはいえ、まだま

だ実際の患者さんを目の前に、2年目以上の先生方のように迅速に考え、行動に移すだけの知識と経験がないため、こうした勉強会を通して症例・知識を共有する機会を頂けることはとてもありがたいです。研修医だけでなく、宮地先生や、スーパーバイザーとして指導して下さる上級医の先生方にも来て頂いており、一層勉強になっています。まだまだ、学び、学びの連続ですが、学んだことを一つでも診療の現場で生かしていけるように、今後も初心を忘れず励んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、こうして日々研修に励めるのは日頃から支えて下さる皆様のおかげと感謝しております。この場をおかりして御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

臨床研究推進室便り



日に日に寒さも増し、早くもクリスマスや年末ムードが高まってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、11月8日、9日に開催された国立病院機構総合医学会にて、当臨床推進研究室からもポスター発表をさせて頂きました。

今回は「臨床研究推進室の効率化・逸脱防止のための取り組みについて」という演題でポスター発表しましたので、当臨床研究推進室で実施している業務改善の一部をご紹介します。

業務改善内容の一例

＜温度逸脱予防＞

治験専用に取り出した血液などは保管する際に厳重な温度管理が必要です。

検体保管庫の冷凍庫ドアにチャイルドロックを装着し、ドアが確実に閉まるように工夫し、温度上昇を防いでいます。



医学の進歩に積極的に 関与する部署です。

■CRC(看護師) 岡田莉恵子

治験参加中の患者さんに提供して頂いた血液や尿などの資料を無駄にしないような工夫の一つです。

＜CRCの教育体制の見直し＞

経験チェックリストを使用することで、学習すべき基本事項や自己の課題、経験状況を一覽で把握しやすくしました。またプリセプター制度を導入することで、業務においてのみならず精神面のサポートを行うようにしています。(プリセプター：経験値の浅い看護師をマンツーマンで指導・支援する看護師のこと)

などなど…

最近では治験の内容も複雑で難しいものも多くなってきました。

当臨床研究推進室では短時間勤務や非常勤、未就学児を持つお母さん世代の割合も高く、CRCの入れ替わりもしばしばですが、生活の中からひらめいたアイデアや工夫を生かして、様々な治験に対応できるよう日々尽力しています。

上記は一例ですが、院内全体で患者さんにより安心・安全に治験に参加して頂ける環境作りができるよう、更なる業務改善に取り組んで行きたいと考えております。何かご意見等あれば、いつでも臨床研究推進室へ声をかけてください。

※CRCとは、治験コーディネーターのこと。治験については円滑な進行・運営を支援する専門家です。



薬だより

Message from the pharmacist

～その薬、ドーピングになるかも?～

■調剤主任 串田 康弘



東京オリンピックまであと約半年になりました。みなさん、スポーツファーマシストという制度をご存知ですか?

スポーツファーマシストは、日本アンチドーピング機構(JADA)が10年4月から毎年認定を行っている世界初の制度で、競技者などへの正しい薬の使い方の指導や、ドーピング防止の普及・啓発などを目的としています。

ドーピングとは「スポーツにおいて禁止されている物質や方法によって競技能力を高め、意図的に自分だけが優位に立ち、勝利を得ようとする行為」のことです。意図的であるかどうかに関わらず、ルールに反する様々な競技能力を高める「方法」や、それらの行為を「隠すこと」も含めて、ドーピングと呼びます。

世界中の全ての人が、公平で公正なスポーツに参加することを保証できるよう、アンチドーピングのルールは、世界のどこでも同じルールが適用されています。それが、世界アンチドーピング機構(WADA)が公開する「世界アンチドーピング規程」です。

禁止物質・禁止方法は、WADAの禁止表に掲載されており、次の3つに分類されています。常に禁止される物質と方法(競技時および競技会外)、競技時に禁止対象となる物質と方法、特定競技において禁止される物質の3つです。

常に禁止される物質内には、成長ホルモン剤や骨粗鬆症治療薬のエビスタ、喘息治療薬のツロブテロール、利尿剤のスピロラクソン等が含まれています。

また、市販の総合感冒薬や鼻炎の薬にはエフェドリンなどの禁止物質が含まれているものがあります。一部の漢方薬には麻黄を含むものがあり、麻黄には禁止物質のエフェドリンが含まれています。エフェドリンは興奮薬に分類され、競技時に禁止対象の物質となります。(尿中濃度規制あり)

今挙げたものは一部であり、多くの物質が禁止対象となっています。

日本でのドーピングの多くは選手が意図していないうっかりドーピングであると言われています。薬について相談ができるスポーツファーマシストの存在を広く知ってもらい、スポーツの価値を守っていきたいと考えています。

WADA禁止表(2018年)

常に禁止される物質と方法 (競技会(時)及び競技会外)	競技会検査で禁止される 物質と方法
〔禁止物質〕 S0. 無承認物質 S1. 蛋白同化薬 S2. ペプチドホルモン成長因子関連物質および標識物質 S3. ベータ2作用薬 S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬 S5. 利尿薬および隠蔽薬 〔禁止方法〕 M1. 血液および血液成分の操作 M2. 化学的および物理的操作 M3. 遺伝子ドーピング	〔禁止物質〕 S6. 興奮薬 a. 特定物質でない興奮薬 b. 特定物質である興奮薬 S7. 麻薬 S8. カナビノイド S9. 胎質コルチコイド 特定競技において禁止される 物質 P1. ベータ遮断薬
S1, S2, S4.4, S4.5, S6.a, M1, M2, M3以外は「特定物質」	



ーセーフティマネージャー会議よりー

『医療機器グループ活動報告』 ～命に直結する人工呼吸器の勉強会～

■セーフティマネージャー会議 医療機器グループ

医療機器グループは医師・看護師・臨床工学士・臨床検査技師・事務職で構成されており、病院内で使用される様々な医療機器の安全な取り扱い、患者様に安全な医療が提供できるよう多職種・多方面の視点から意見を出し合い活動しています。また職員が医療機器に関する知識を深め、安全に使用できるように研修会を開催しています。

今年度は人工呼吸器についての研修会を行いました。臨床工学士より準備方法を、集中ケア認定看護師より使

用上の注意点などについて講義を行ってもらい、実際に人工呼吸器に触れて学ぶことで理解が深まりました。日頃、呼吸ケアに慣れている職員のスキルアップだけではなく、慣れていない職員も多く参加し良い機会となりました。

今後もグループ活動を通し、職員の医療機器に対する知識・技術の向上を図り、安全安心な医療が提供できるよう努めていきたいと考えています。





栄養管理室 PRESENTS!

栄養満点!ヘルシーメニュー

冬野菜と豆腐の和風グラタン

■管理栄養士
小山 壘



冬に旬を迎える野菜には、大根や白菜、カブなどがあります。今回は、栄養満点の冬野菜を使った、寒い季節におすすめの一品を紹介します。

グラタンは、フランス発祥の料理で、表面をオーブンで焦がすように調理した料理を指します。オーブンでじっくり焼くため身体の芯まで温めてくれる料理です。

またどんな野菜でも相性が良いため、様々な野菜で作ってみてはいかがでしょうか。



冬野菜の秘密

ほうれん草は通年手に入れることのできる野菜ですが、実は「冬が旬」の野菜です。夏採りと比べると、冬採りにはビタミンCが3倍も含まれています。寒い環境で育ったほうれん草は甘みも増します!

～作り方～

【下準備】

- 鶏肉は一口大、玉ねぎは薄くスライスする。
- 白菜、ほうれん草は一口大に切る。白ねぎは縦半分に切り、食べやすい大きさに切る。しめじはばらしておく。
- 豆腐と味噌をボウルでしっかり混ぜておく。

【調理】

- ①オーブンを200℃で予熱する。
- ②フライパンにバターを溶かし、鶏肉と玉ねぎを炒める。
鶏肉の色が変わったら、塩胡椒を加える。
- ③玉ねぎが半透明になったら、b)と顆粒和風だしを加える。
- ④全体がしんなりするまで炒めたら、弱火でc)を加えて混ぜる。
- ⑤よく混ざったら、小麦粉を3回程度で分け入れ、とろみをつける。
- ⑥器に流し込みチーズをかけオーブンでとろけるまで、10分程度加熱する。
- ⑦黒胡椒をお好みで振りかけて完成。

1人分の栄養量

●エネルギー	247kcal
●たんぱく質	17.8g
●脂質	13.3g
●炭水化物	15.3g
●食塩相当量	1.4g

◎豆腐を使っているため、一般的なグラタンに比べてカロリー**50%OFF!**

◎一日の野菜摂取目標量の**約1/2**を摂取できます!

【材料】2人分

●鶏肉(ささみ肉)	1枚	} a
●玉ねぎ	1/4個	
●白菜	2~3枚	} b
●ほうれん草	1/2束	
●白ねぎ	1/3~1/2本	} c
●しめじ	1/3パック	
●豆腐	1/2丁	
●味噌	大さじ1/2	
●バター	15g	
●塩	0.2g	
●胡椒	少々	
●顆粒和風だし	小さじ1/2	
●小麦粉	大さじ1	
●ピザ用チーズ	30g	
●黒胡椒	お好みで	



リソース ナース室 通信

Vol.38

今年度、手術看護認定看護師を取得し、リソースナース室メンバーとなりました成田と申します。よろしくお願いします。

手術看護には、「手術という侵襲的な治療を受ける場において、いかなる状況下においても医療倫理・看護者としての倫理を遵守し、行動する」ことが求められます。医療技術の進歩に加え患者さんの高齢化が進み、手術を受ける患者さんの抱える問題も多様化・複雑化していると考えます。近年、手術看護は術中だけでなく術前・術後を含めた「周術期看護」として考えられており、手術室看護師として、

多様な患者さんに寄り添った看護を実践する



皆さん。こんなことを
やってほしい! というリクエストを
お待ちしております!

ために、様々なことを学び考え続けることが重要であると感じています。一人ひとりの患者さんにあった周術期看護を、周術期看護を担うチームで考え実践していけるよう、患者さんやご家族、患者さんを取り巻く環境に真摯に向き合い取り組んでいきたいと思っています。

その中で、手術室の一員として、またリソースメンバーの一員として、周術期看護の充実と質の向上のために、微力ながらお役に立てたらと思っています。

「実践」「指導」「相談」という認定看護師の役割を果たしながら、リソースナース室のメンバーと協力し周術期看護と岡山医療センターの発展に寄与できるよう頑張っていきたいと思っています。



手術室西井副看護師長と安全な手術看護が提供できるよう相談しています

地域医療連携室の業務について

■地域医療連携係長 高橋 信夫

ジャーナルをご覧ください。今回は地域医療連携室の業務内容について紹介いたします。

地域医療連携室の業務は前方連携と後方連携の二つに大きく分かれます。

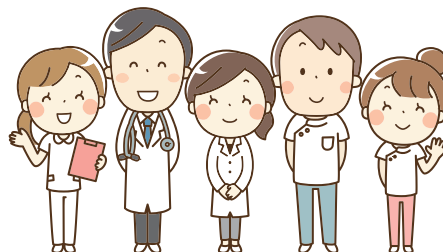
前方連携は看護師1名、非常勤事務職7名、事務職1名の9名で構成されています。主に外部の先生方からのご紹介の窓口を担当していて、ご紹介いただいた患者さんの予約業務をはじめ救急患者の受け入れ、転院調整、診療情報の提供依頼など様々なご連絡をお受けしています。また、患者さんからのセカンドオピニオンのご相談などもお受けしております。

後方連携はMSW(医療社会専門員)5名と退院調整看護師3名で構成されています。患者さんの退院支援を円滑に行うために、医療関係以外にも福祉・介護に関わる多施設・多職種との顔の見える医療連携を構築しています。また、退院支援事例検討会を開催す

るなど、地域医療での役割を果たせるよう力を注いでいます。

以上、誠に簡単ではございますが地域医療連携室についての紹介となります。

私たちは地域における患者さんが必要とする時に必要なだけの支援が受けられるよう、院内外との連携を推し進めることを目的として日々奮闘しています。その奮闘の様子や皆様にとって有益になる情報をこのジャーナルを含め情報発信してまいりますのでご期待ください。



放射線科(CT, MRI)の検査予約について

■地域医療連携室看護師 田中 久美子

今回は放射線科で行われている検査の予約についてご案内させていただきます。

地域医療連携室では放射線科において、地域の先生方からご予約について対応させていただいております。検査はCT、MRIがご予約できます。検査月日と時間については下記：検査日割り表をご参照ください。午後からの検査希望にも対応させていただきます。検査結果

は同日、画像・検査報告書とともにお持ち帰りいただき、紹介医療機関様へお返しさせていただきます。

地域医療連携室の診療予約と同様に前日16時までにご依頼いただければ日程調整させていただきます。

お急ぎの検査希望がありましたら放射線科と調整し対応させていただきます。

その際は、地域医療連携室にご連絡ください。

直通電話：**086-294-9556**

放射線科 検査日割り表 [平日(月～金)]

検査項目	時間
CT	9:00～
	10:00～
	11:00～
	13:00～
	14:00～
	15:00～
MRI	11:30～

※ご希望があれば造影剤を使用した検査もさせていただきます



320列CT装置



3.0T-MRI

看護助産学校 通信 Vol.39



ステージ発表



食品バザー

令和初の学生祭を通して学んだこと

学生祭実行委員 第20期生(2年生) 大谷 優奈・松本 芽衣

令和元年9月21日(土)に学生祭が行われました。当日は曇り空にも関わらず355名という多くの方に来校していただきました。今年のテーマは「令和 発～広げよう笑顔の輪」でした。令和の時代が始まり、地域の方々の笑顔の輪を広げたいという気持ちを込めてこのテーマに決めました。

今年の学生祭は昨年度より変更する点がいくつかありましたが、どのブースも好評に終わり、令和初の学生祭にふさわしいものになりました。私たち学生祭実行委員は、令和初の学生祭を成功させるため、何か月も前から話し合いを重ねてきました。意見がまとまらないことや連携が不十分で、頭を抱えることも多くありました。

実行委員だけでは乗り越えられないことも、実行委員以外の学生や先生方、さらには、地域の方々や病院関係者の皆様にもご協力いただき乗り越えることができました。

令和発の学生祭を通して、私たちは多くの方々に支えられていることや、皆が連携して動けるようにするためには細やかな報告や連絡が大切であることを学びました。今後は学びを活かして、私たちが人の助けになれるように、看護者として学業に励んでいきたいです。

この場をお借りして、学生祭にご協力いただいた地域の皆様や職員の皆様に御礼申し上げます。



継灯式を終えて

看護学科21期生 篠田 千春・村上 紗安

21期生は、10月4日に継灯式を行いました。私たちは、継灯式委員として約1か月活動しました。主な活動は、継灯式をむかえるために、灯を引き継ぐ意味や看護について考えていくことでした。その一つとして、ナイチンゲール誓詞を私たち21期生としてどのように捉えるか、クラスで出た意見を話し合い、ひとつのものにしました。その意味を解釈していくプロセスの中で、患者さんの立場に立つて考える必要があること、患者さんに私たちができる事だけを考えるのではなく、患者さんは私たちに何を求めているのかを考えることが必要だと気づきました。

自分の行う看護を一つずつ明確にし、患者さんに寄り添

うこと、患者さんの力を引き出す関わりについて考えました。時間をかけて、たくさん悩み考えたナイチンゲール誓詞の解釈は、21期生らしいものになりました。そして、全員で考えたナイチンゲール誓詞を暗唱することで、気が引き締まり、先輩方が受け継いでこられた灯を自分たちが受け継ぐことによって、より一層看護師になるという自覚の気持ちが大きくなりました。

これから実習が始まったり、技術試験が増えたりと壁にぶつかることもあると思います。しかし、21期生101名で助け合い、壁を乗り越え、1人1人が自分の理想とする看護師になれるようより努力していきたいと思います。



優秀ポスター賞を受賞しました。

■小児科医師 樋口 洋介

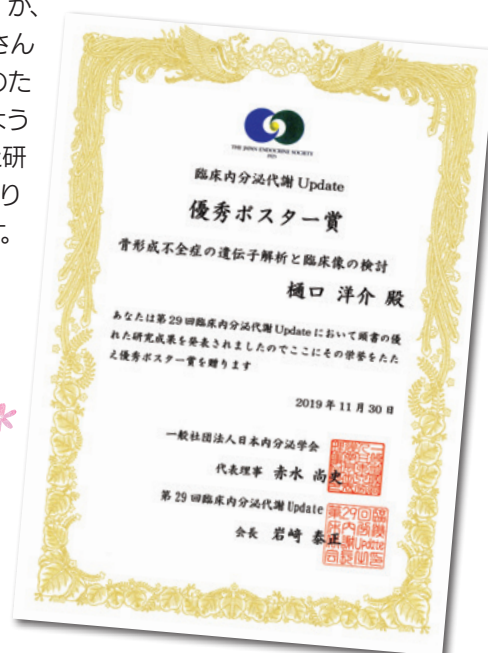


2019年11月に高知市で行われました日本内分泌学会第29回臨床内分泌代謝Updateという全国学会で「骨形成不全症の遺伝子解析と臨床像の検討」という研究発表を行い、優秀ポスター賞を頂くことができました。

私は2008年に岡山大学を卒業後、当院で臨床研修医として医師のキャリアを始めました。大学生の時から小児科医になりたいと考えており、臨床研修終了後も引き続き当院小児科で小児科医としての基礎を学ばせてもらいました。次に小児科医の中でもより専門性を高めるため岡山大学病院小児科と同大学院で小児内分泌・骨代謝分野の診療と研究に従事してきました。今回の発表は骨形成不全症という先天的に骨が弱くなる病気について研究したことをまとめたもので、これまでに関わった先生方や多くの患者さんに深く感謝いたします。今回の受賞を励みにしっかりと論文にまとめ、さらに発展させて

いただきたいと考えています。

2019年4月より再び当院小児科で勤務をさせて頂いております。小児医療の世界も日々変化し、求められる事もどんどん多様化していく中において大変なことも多くありますが、少しでも患者さんとそのご家族のために役立てるよう引き続き診療と研究に尽力して参りたいと思います。



原子力災害拠点病院の指定

■災害医療担当 明星 正人

岡山医療センターは、令和元年10月31日付で岡山県知事より「原子力災害拠点病院」の指定を受けました。

「原子力災害拠点病院」とは、原子力災害時に被災地域の原子力災害医療の中心となって機能する医療機関です。また、原子力災害医療派遣チームを有し、原子力災害時に被災した原子力災害対策重点区域内の道府県内において救急医療等を行うこととなっています。

原子力災害発生時には、出動要請があり活動場所として、被災道府県の原子力災害拠点病院で汚染された患者への救急医療等の対応を行うため、医師、看護師、診療放射線技師等の放射線管理を行う放射線防護要員の4名以上の「災害派遣チーム」を構成することとなっております。

原子力災害に関する救急活動を適切に行うためには、災害医療の知識及び技能に加えて、原子力災害医療に特有で最低限必要な原子力災害及び放射線防護の知識を有することや、放射線測定に関する技術も必要とされます。また、装備として、救急医療及び災害医療に必要な資機材を有し、放射線物質の放出開始後の被ばく傷病者等に対する医療活動を想定した放射線防護に必要な資機材も整備する必要があるところです。

今後は、必要な機材の整備を進めていくとともに、高度被ばく医療支援センターである広島大学病院と連携しチームの養成に努めて行きたいと思っています。



2019年11月16日 山陽新聞(全県版)掲載記事

病院フェスタ2019のご報告

■副統括診療部長 太田 徹哉

岡山医療センターの病院開放イベント「病院フェスタ」を、今年は10月19日土曜日に開催しました。事前の天気予報では若干の降雨予想ではあったものの、何とか曇天程度で持ちこたえ、屋内・屋外イベントともに大盛況となりました。ご来場いただいた方々、院内でフェスタに参加いただいた関係各所の皆様には、改めて御礼を申し上げます。

今年度、院長も含めた診療部関連で大幅な幹部交代がありました。それに伴い「病院フェスタ」で岡山医療センターの新たなメッセージを発信できればと考え、地域に必要とされる病院を目指し、職員が生き活きと働いている様子をわかっていただくことを第一の目標としました。単にお祭りのようなフェスタにするのではなく、どんな人がどんな思いで医療に携わっているのか、そこを見ていただきたい。そのために、まず昨年の規模よりは思い切ってダウンサイジングしました。どちらかというと「お祭り」に関連する屋外飲食関連ブースは業者に外部委託し、我々職員は普段の業務内容を比較的わかりやすい形で来訪者へプレゼンテーションすることに重きを置きました。各専門領域の職員は、皆誇りと責任感を持って業務に携わっています。何気なく行われている医療・看護・検査・処置などにも、細心の注意を払い真摯に向き合っていることが、各ブースの内容を通じて少しでも来訪者の皆様に伝わったのではないかと考えています。

第二の目標としては、病院という特殊な場の中で皆が笑顔になることを考えました。日々の医療現場では嬉し

いこともあれば悲しく辛いこともあり、常に笑顔でい続けるのは難しいと思います。ましてや、当院のような急性期病院では尚更です。しかし、そういう前提がある場所だからこそ、せめてフェスタの中では笑顔でいたい、職員がひとつになれる場所を作りたいと考え、2階ロビーの真ん中に小さなステージを設営しました。単にイベントを行うだけではなく、様々な出会いがもたらされる場所として。横井小学校の皆さんによるブラスバンド演奏やバトンワリングは、見ているだけで自然と笑みがこぼれてきました。未来への希望を感じさせる子どもたちの生命力は、まさに病院という場で輝きを放っていました。そして、西4病棟アシスタント：荒川さんによる手話パフォーマンスには、思いがけず強く心が揺さぶられました。これは僕だけが特別に感じたことではありません。その場にいた人たちにとって、共通の体験だったと思います。病気やハンディキャップを超えていく強さと力が彼女のパフォーマンスには具現化されており、笑顔になることはまた別の意味で、病院や我々医療従事者に求められているものと改めて感じました。来年のフェスタに繋げていくべきテーマの一つだと考えています。

最後に、来訪者の皆様には飲食ブースでの待ち時間が長くなってしまい、改めてお詫びを申し上げます。当初想定していたよりも多くの方々にお越しいただき、混雑を招いてしまいました。来年にはきちんと改善して皆様を「病院フェスタ2020」へお迎えしたいと考えています。



当院小児科系マスコット
さにーちゃんとふれあい



開会式(院長)

開会式の様子



色んな検査をしてみよう



ラジエーションハウスへ行こう



お菓子なちょうざい体験

National Hospital Organization Okayama Medical Center

岡山医療センター 病院フェスタ 2019

イベント一覧

- 横井小学校プラスバンド部演奏 ●パントワリング
- ゲームコーナー：ヨーヨー釣り、スーパーボールすくい
- 屋台：焼きそば、フランクフルト、小さなお好み焼き
- 地域物産販売 わらびもち、大福、おみゆなど
- さーちゃんとのふれあいコーナー
- バルーンショー
- 院内コンサート
- リハ室で遊ぼう
- こそだて広場
- メタボを学ぼう
- お菓子なちょうざい体験
- 中山忍先生によるモザイクアート
- 介護ロボットHALの体験コーナー 車いす体験コーナー
- ほっと息ハートカフェ
- 院長体験(小学生1～6年生)
- 看護部長体験(小学生1～6年生)
- ラジエーションハウスへ行こう
- いろんな検査をしてみよう!
- アニメで学ぶがん検診心臓検診
- 食べて学ぼう!美味しい健康弁当(¥500)
- 手術室探検に行こう!
- 外科手術体験

観客、観覧 観覧下手前(小学生以上)

1 印が付いているイベントは、必ず事前予約が必要です。
2 印が付いているイベントは、当日受付。
3 印が付いているイベントは、事前予約と当日受付。
予約は病院フェスタ予約係 (086)294-9911(代)
予約受付:10月1日(火)から 平日10時～15時
なお、定員になり次第受付を終了させていただきます。

案内図 交通機関
10月19日(土)
AM10:00～PM3:00
NHO OKAYAMA MEDICAL CENTER
●主 催 独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター
●お問い合わせ 〒701-1192 岡山市北区田後 1711-1 TEL: (086) 294-9911(代) 病院フェスタ係

車いす体験コーナー



ほっと息
ハートカフェ



外科手術体験



西4病棟アシスタント
荒川さんの手話パフォーマンス



横井小学校プラスバンド部演奏



パントワリング



院内コンサート



閉会式の様子



お片付け





作品名: フランスの山人の歌による交響曲, 作品 25

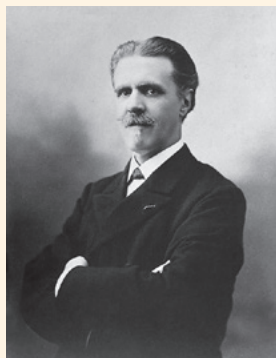
英語: Symphony on a French Mountain Air, Op. 25

仏語: Symphonie sur un Chant montagnard français, Op. 25

別名: セヴェンヌ交響曲, Symphonie cévenole

作曲者: ヴァンサン・ダンディ, Vincent d'Indy (1851-1931)

■クラシックソムリエ 米井 敏郎



ヴァンサン・ダンディ

ヴァンサン・ダンディはフランスの作曲家です。まず大抵の方がこの作曲家をご存じないのではないかと思います。『フランスの山人の歌による交響曲』、別名『セヴェンヌ交響曲』という曲を1886年に作曲しています。ダンディは、^{セザール・フランク}César Franck (1822-1890) の高弟で、19世紀後半

半~20世紀前半のフランスを代表する大作曲家です。この交響曲はダンディの数ある作品のうち、今日かうじて演奏されるほとんど唯一の作品です。曲の主題は山岳地帯であるセヴェンヌ地方で聴き覚えた山人の歌が充てられています。セヴェンヌ山脈(Cévennes)は、フランスの中央高地(Massif Central)を形成しており、同地は2011年に『コースとセヴェンヌの地中海農牧業の文化的景観』としてユネスコの世界遺産に登録されています。この『フランスの山人の歌による交響曲』は、交響曲としては異例ですが、独奏ピアノが最初から最後まで大活躍します。いくら交響曲だと作曲者がいっていても、個人的にはどう聴いてもピアノ協奏曲なのです。親しみやすいメロディとフランス音楽らしいとてもおしゃれな感じの曲で、もっともっと演奏機会があってもよいのではないかと思います。曲は3楽章で構成され、演奏時間は30分程度です。第1楽章の冒頭で聴かれるコーラングレ(イングリッシュホルン)の素朴で魅了的な旋律に始まり、ピアノがしずしずと優美な旋律を奏でるのです。山道をリズミカルに登っていくような旋律からして、もうこの曲の虜になってしまいます。

さてお奨めのCDですが、1. ^{マーティン・ヘルムヘン}Martin Helmchen (1982-), ^{マレク・ヤノフスキ}Marek Janowski (1939-) 指揮, スイス・ロマン管弦楽団, [2010年録音, Pentatone]. このマーティン・ヘルムヘンがピアノを担当したCDは、演奏が卓越しており、録音状態もすばらしいので、まず一番にお奨めできます。ピアノはデリカシーに富んだ優しさで、決して荒ぶることなく、瑞々しい音楽を紡ぎ出していきます。マーティン・ヘルムヘンは、ベルリン生まれ、2001年のクララ・ハスキル国際コンクールで優勝し、国際的な注目を集めました。室内楽においても、ヴァイ

オリンのユリア・フィッシャー、クリスティアン・テツラフや自身の妻でチェリストの ^{マリー・エリザベート}Marie-Élisabeth ^{ヘッガー}Hecker (1987-) らと数多く共演しています。2010年から、ドイツのクロンベルク・アカデミーで室内楽科准教授を務めています。2. ^{ルイ・ロルティエ}Louis Lortie (1959-), ^{ラムオン・ガンバ}Rumon Gamba (1972-) 指揮, アイスランド交響楽団, [2012年録音, Chandos]. ^{ルイ・ロルティエ}ルイ・ロルティエは、カナダのモントリオール生まれで、フランス系カナダ人のピアニストです。1984年度のブゾーニ国際ピアノコンクールで優勝しています。2007年から指揮者のラモン・ガンバとアイスランド交響楽団のコンビにより、ダンディの管弦楽作品集の録音が行われ、第6巻で完結しましたが、これはその第5巻となったCDです。3. ^{ジャン・イヴ・ティバウド}Jean-Yves Thibaudet (1961-), ^{シャルル・デュトワ}Charles Dutoit (1936-) 指揮, モントリオール交響楽団, [1989年録音, Decca]. とてもおしゃれな感じのする演奏で、好感を持ちました。その他のお奨めCDは、ピアニスト、指揮者、オーケストラ、[録音年、レーベル名]の順に名前だけあげておきます。4. ^{カトリーヌ・コラール}Catherine Collard (1947-1993), ^{マレク・ヤノフスキ}Marek Janowski (1939-) 指揮, フランス放送フィルハーモニー管弦楽団, [1992年録音, Erato]. 5. ^{フランソワ・ジョエル・ティオリエ}François-Joël Thiollier (1943-), ^{アントニオ・デ・アルメイダ}Antonio de Almeida (1928-1997) 指揮, アイルランド国立交響楽団, [1993年録音, Naxos]. 6. ^{アルド・チッコリニ}Aldo Ciccolini (1925-2015), ^{セルジュ・バウド}Serge Baudo (1927-) 指揮, パリ管弦楽団, [1975年6月録音, EMI]. 7. ^{ロベール・カザドシュ}Robert Casadesus (1899-1972), ^{ユージン・オーマンディ}Eugene Ormandy (1899-1985) 指揮, フィラデルフィア管弦楽団, [1958年録音, Sony].

さて、YouTubeですが、残念なことにお奨めできそうな動画が今のところありません。したがって、この『フランスの山人の歌による交響曲』を聴くなら、CDを聴いてみるのが最善の策だと思います。実演ではまず滅多に聴くことができない曲ですので、もし万が一、コンサート等で取り上げられていたら、是非とも聴きに行くべきではないかと思います。

私のホームグラウンド、池田動物園

■小児外科医師 人見 浩介



※動物たちをこよなく愛する小児外科医の人見先生に池田動物園について語ってもらいました。

池田動物園に入ってすぐのところの入園者を迎えてくれていたゾウのメリーちゃんが亡くなり早3年が経ちます。5年前に岡山に転勤となり、それと同時に池田動物園通いが始まりました。勤務先の病院のすぐ近くにこれだけのクオリティーの動物園があることにとても感動したのがつい先日のように感じますが、動物の成長や老化をみるとやはり時間の流れが身に沁みます。

ご存じの方も多いとは思いますが、いま池田動物園が再び盛り上がりを見せています。その立役者はなんといってもホワイトタイガーのサンちゃんでしょう。白変



ホワイトタイガーのサンちゃん

種のサンちゃんはまだ6歳で、毛並みも美しく多くの子供たちを魅了してくれます。ヒグマの大地くんもいなくなり、寂しくなった入園口付近の一角に再び活気を取り戻してくれました。動物園に行くと好きな動物(主に大型哺乳類)の前で、気の向くままにずっと眺めているのが好きですが、そうするとその動物に対して新たな発見や疑問が湧いてきます。「キリンの首の骨は何個ですか?」。今では飼育員さんが近くにいるとその動物についての質問をするのにためらいがなくなりましたが、はじめて質問するときは少しドキドキしました。その時に「人間と同じ、7つですよ」と優しく教えてくれた飼育員の方が、今回ホワイトタイガーの飼育を担当されるということを知り、あのときの飼育員さんが、いまではメインの動物の飼育もされるのかと思うと感慨深いです。動物は奥が深いです。見ているようでも気づかなかったことは数知れず。週末には『飼育員の〇〇な話』と銘打って、クイズを交えた動物の雑学イベントがありますが、尻尾のみの写真で、そのサルの名前をあてるクイズで次々と答えを出す小学校低学年であろう子供に完

膚なきまでにされた苦い経験があり、以降は動物を隅々まで観察しようと自分の中で変化がありました。すると動物の端々にある可愛らしさと、ツツコミどころ満載の“おまぬけさ”に気づくことができ、動物が更に好きになることができ、一度じっくりと見てみるのもおすすめです。

ライオンのモジロウくんとのにらめっこは池田動物園に行った際の恒例であり、毎回のごとく檻の前でじっとモジロウくんを睨みます。すると向こうもこちらをじっと睨み返してくるのですが、しばらくするとその威圧感と殺気でたじろんでしまいそうになります。いまでは歳を重ねすっかりたてがみが少なくなり、体も痩せてしまったモジロウくんですが、その迫力は健在であり、いつも園内に響き渡る鳴き声を聞かせてくれます。



若き日のモジロウくん

池田動物園は公式Twitterがあり、毎回たくさん動物の様子を知らせてくれるので楽しく拝見して癒されていますが、やはり実物に勝るものはありません。次の休みには池田動物園を訪れてみるのはいかがでしょうか。じっと動物を見てみると、きっとおもしろかわいいところに気が付いて興味が湧いてくることでしょう。



飼育員さんによる〇〇な話

病棟にしまじろうが遊びに来ました☆ ～しまじろう病院訪問プロジェクト「いっしょに笑おう☆キャラバン」～

■6B病棟 看護師長 木原 奈緒美

平成29年4月よりしまじろう病院訪問プロジェクトとして、しまじろうが「お子さまの夢を見守る」「お子さまの成長を応援する」をコンセプトに、全国の子ども病院を訪問しています。

今回、10月21日に当院にもしまじろうとお姉さんが遊びに来てくれました。入院中の子どもたちや保育所の子どもたちのもとを訪れ、素敵な時間を提供してくれました。



〈しまじろうと6B病棟スタッフ〉

病棟では、しまじろうがプレイルームや病室に遊びに来てくれて、お話したり一緒に記念写真を撮りました。突然、テレビの中のしまじろうが目の前にいて、興奮する子や初めは恥ずかしそうにしていたけど嬉しそうにしまじろうとおしゃべりを始める子、しまじろうが大きくなって泣いてしまう子、じっとしまじろうを見つめる子など、反応は様々でしたが、どの子も目をキラキラさせて笑顔がはじけていました。しかし、意外にもはしゃいでいたのは大人かもしれません。付きそいのお父さんやお母さん、病院スタッフもしまじろうに駆け寄り大興奮でした。ともあれ、子どもたちと共に素敵な思い出をい

っぱい作り、夢のような時間を過ごしました。



☆当院小児科系
マスコットの
さに一ちゃんと
夢の共演も
実現しました☆

◎ 岡山医療センターへの電話連絡について

諸事情より2019年12月から当院への『非通知設定』でのお電話はお取り次ぎしておりません。(FAXについてはこの限りではございません)

非通知設定でのお電話については「この電話はお受けできません」とメッセージが流れます。

恐れ入りますがご理解のほどお願いいたします。



編集後記

季節はすっかり冬となり、インフルエンザが流行する時期となりました。皆様、どうぞお体にはお気をつけくださいませ。

さて、今回の記事の中で10月に開催した病院フェスタを特集しております。地域の方々から多くのご参加とご協力をいただき盛況のうちに終わることができました。当院では他にも地域の医療関係者の方にご参加いただける研修会等企画しておりますので、それらの情報もお届けしていければと思います。

その他、今回も多くの部署から医療情報やお仕事紹介についての記事をいただきましたので、ぜひご覧くださいませ。

(高橋)